

[14\_4] 図書館情報 : 九州大学附属図書館報 :  
14(4)

<https://doi.org/10.15017/16416>

---

出版情報 : 図書館情報. 14 (4), pp.23-30, 1978-12-28. 九州大学附属図書館  
バージョン :  
権利関係 :

# 図書館情報

1978.10~12

The Kyushu University Library Bulletin

Vol. 14, No. 4

## ペラ文庫について

森 洋

筆者はかつて、同じ図書館情報(Vol. 6, No. 10, 1970)に、卓越した学者の蔵書を一括購入して、その来歴を保全しつつ、研究者の利用に供することこそ、図書館の高貴な義務であると書いたが、当時はこれは夢であり、到達しがたい目標であると考えていた。このことが、10年にして、ついに実現したのである。

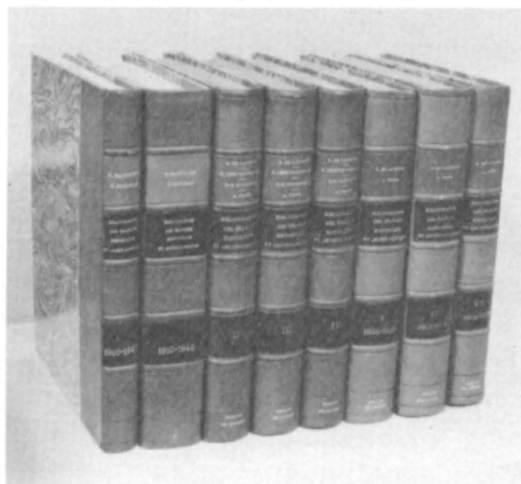
昭和54年の1月中旬に九州大学ではペラ文庫の納入検収が予定されており、ここに九州大学も、ヨーロッパの碩学の蔵書をもつことを誇れるようになるのである。故 Charles Perrat 教授(写真の左。なお、右はEcole des ChartesのTessier教授)は、1899年1月14日 Lyonに生れ、1937年に、故 Dupont-Ferrier 教授の後をうけて Ecole Nationale des Chartes の公法史(Histoire des Institutions)の教授となり、1953年には、同校の教育体系の基幹をなす古書体学(Paléographie)の教授に転じた。1970年の退官にいたるまでの同教授の活躍は、文字通りフランスにおける中世史研究の要であったと云っても過言ではない。我が国における知名度こそ低い、古書体学の最高権威として、また *Revue Historique du Droit Français et Etranger* の編集主幹として、同教授がヨーロッパ・アメリカの斯界に及ぼした影響は、はかり知れぬものがある。それ以上に、今日中世史学界で活躍している研究者のほとんどは、何らかの形で同教授の教えを受けており、筆者も、1959 - 60年にその講筵の末席に連なった一人である。



Ecole Nationale des Chartes とは、1821年に、ギゾーによって、当時大量に要求された文書館員を養成する目的で設けられたもので、いわゆる Grandes Ecoles の一つをなす。この学校に入学するには、バカロレアの他に、高度の入試が課せられ、入学後は、選択の余地のないカリキュラムの下で、猛訓練が行われる。すなわち——少なくとも筆者が聴講生として在学していた当時は、——第一学年に古書体学、ロマン語、書誌学、中世ラテン語、第二学年に文書形式学、公法史、記述史料学、古文書館学、第三学年に私法・教会法史、中世考古学、近世制度史を学び、第四学年に論文を書いて Archiviste-Paléographe の学位を得、その年度の首席にはローマ大賞が与えられる。これらすべての講義には古文書の写真複製が使用され、その場で読まされるから、古書体学はこの教育体系の、ひいてはこの教育体系に支えられた研究体系の要とならざるを得ない。また、この学校の教授は、欠員が生じた場合に、何時でもその講義を代行し得る能力が要求されている。従って彼らには、古代から近世にいたる間の“網羅的な”学力と、この学校の標語でもある“緻密な”方法論とが要求され、しかもこの方法論は、近代歴史学の基礎をきずいたサン・モール修道会のそれを、直接継承したものである。

ペラ教授の公私にわたる生活環境は、当然その蔵書に反映している。彼はローマ大賞によって、ナポリ

文書館で研究したから、第二次大戦によって消滅したこの文書館関係の資料が多数残っている。中世史の史料や fac-similés, さらに公・私法史関係が多いのは驚くにあたらないが、地方史研究の網羅的な蒐集は見事であり、地方小都市の限定出版物や、県単位の歴史学・考古学雑誌6セットは、特に注目に値する。出身地リヨンに対する愛著も強かつたらしく、このコレクションのみで、優にリヨン史の専門家を養成し得る程である。ツール類にも際立った特徴があり、de Lasteyrieによって1888年にはじめられ、その後 Gandilhon に引つがれて1961年まで続いた *Bibliographie générale des travaux historiques et archéologiques* (右の写真) が個人蔵書に入っていることなど、正に空前絶後のことと云うべく、これあってはじめて、1953年以後続刊されている *Bibliographie annuelle de l'histoire de France* が、生きた二次資料として活用される。その他教授個人の趣味からか、中世のみならず、ルネサンスとそれに続く時代の文学作品も数多い。



ペラ教授の名を一挙に高めたのは、1955年にローマで開かれた国際歴史学会であった。この時彼は、

5世紀末の北アフリカの商業文書である《Tablettes Albertini》の解読結果と、これに基づくアルファベットの一貫した発展過程の立証とを発表した。この研究は1952年に刊行されたが、この本だけはこのコレクションの中に見出せなかった。調査の結果この本は、同教授の令嬢が、父君の思い出として手許におかれたことがわかったが、ローマの歴史学会は同教授自身の生涯の思い出でもあるらしく、同学会関係の資料は、前頁のスナップや入場券にいたるまで、保存され、日本に渡って来てしまった。

筆者は、ペラ教授の教えをうけつつ、その学識の広さと緻密さに圧倒され、その蔵書を一目見たいと思いつけて来た。また学派 (école) がそうさせたのか、この文庫は、筆者が集めた研究室や個人の蔵書と、まことに折合いよく融け合っている。1976年7月の同教授の逝去は、惜しみても余りあるが、同教授の蔵書は、縁あって九大に入ったという感が深く、筆者はこの蔵書の総合カタログの作製や、ひいては今後の研究に、強い責任を感じている。

(もり・ひろし：文学部教授)

(ペラ文庫は、昭和53年度外国学術図書購入費による全国共同利用図書として、九州大学に購入が決ったものである。)

### 本学教官著作寄贈図書

#### <中央図書館>

水波 朗 (法学部教授)

要説法律学

昭53 九州大学出版会 ¥1,800

(林 迪廣, 徳本 鎮 共著)

#### <文学部図書室>

鈴木 広 (文学部助教授)

コミュニティ・モラルと社会移動の研究

昭53 アカデミア出版会 ¥13,000

## ◆ 会 議

## 国立七大学附属図書館協議会（第52次）

〈とき：昭和53年10月11～12日 ところ：大阪大学附属図書館〉

第一日目は、第11回部課長会議が開催され、外国図書、雑誌の購入手続、納入価格の設定など当面する諸業務に関連した議題の協議、情報交換が行われた。第二日目は、協議会として下記8議題が提出され終始熱心な協議が行われた。両日を通して文部省学術国際局情報図書館課 竹田課長補佐の列席をえ、文部省の施策についての説明及び個々の協議題に関して適切な示唆をうけた。

## 協 議 題

- (1) 開館時間の延長計画と問題点について
- (2) 図書館部課長の待遇改善をはかることについて
- (3) 現下、学術情報処理体制における大学図書館の役割
- (4) 相互協力ネットワークの形成について
- (5) 中央図書館における研究図書館的機能のあり方について一分館（部局）との機能分担を含め、特に資料配置とサービス体制を中心に
- (6) 図書館必要面積の算定基準の改訂について
- (7) 相互協力担当要員の確保について
- (8) わが国学術情報流通施策と大学図書館、特に国立大学附属図書館との関連について

以上の協議題について協議された結果、去る7月国立大学図書館協議会から提出された「国立大学附属図書館の整備充実に関する要望書」の内容と重複するが重ねて七大学附属図書館協議会として次の3件について関係各省庁に対して要望書を提出することになった。

- (1) 相互協力業務担当職員の確保、わけても協力の拠点とみなされる大学図書館への早急な職員の配付を行うこと。
- (2) 図書館必要面積の算定基準を改訂すること
- (3) 図書館部課長の待遇改善をはかること

なお、協議題(3)に関連した、「学術情報処理体制における大学図書館の対応について」は部課長間で検討することになり、10月25日京都で開催された国立大学図書館協議会理事会の機会に第一回連絡会議がもたれた。

## 日本医学図書館協会総会（第49回）

〈とき：昭和53年10月12～13日 ところ：ホテル花巻〉

今回の総会は岩手医科大学附属図書館が当番館で加盟86館、協力会員1機関が参加して開催された。協議題は次の通りである。

## 協 議 題

1. 医学雑誌総合目録と文編第6版の刊行について（中央事務局）
2. 国立大学の図書館施設計画に用いる現行基準（国立学校建物の実態調査等に用いる必要面積一覧表・昭和53年度用）の改正について（東海・中国・四国地区）
3. 会則改正について（中央事務局）
4. 新規加盟館の申請承認について（中央事務局）
5. 次期当番館について（中央事務局）

正会員として加盟申請を出していた福岡歯科大学図書館、東北歯科大学図書館、鶴見大学附属図書館、準会員として加盟申請を出していた愛媛大学医学図書館、滋賀医科大学附属図書館、松本歯科大学図書館がそれぞれ承認された。

また、前年度3館であったJOISの端末機導入館も今年度は更に18館が導入し合計21館となった。フアクシミリについては実験も終りその結果については現在分析中である。

## 〈経済学部図書室〉

秀村 選三（経済学部教授）

西南地域史研究 第2輯

昭53 文献出版 ¥5,800

（西南地域史研究会 代表：秀村選三）

## 〈薬学部図書室〉

大倉 洋甫（薬学部教授）

LC一けい光分析

昭53 講談社 ¥3,200

## ◆ 研 修 報 告

## 近世史料取扱講習会（第24回）に参加して

阿 部 蔭 子

〈とき：昭和53年10月23～27日 ところ：京都府立総合資料館〉

この講習会は近世史料を取扱う公共機関において、当該関係者に近世史料の概要、読解、調査、収集、整理、分類、保存管理などに関する基礎的な知識技能を取得させ、近世史料の保存、利用などの効果を高めることを目的として、国立史料館の主催により毎年開催される。本年は受講者43人中、県史、市史編纂などで実際に近世史料（古文書）を取扱っている人達が半数以上、そのため基礎的な知識、技能を取得するためというより、実際に従事している仕事の中で生れた問題点を持って、この講習会でその解決法を見いだそうとする人達の参加が多かったようである。その人達にはこの講習会の内容は、概論ばかりでものたりなく感じられ、初心者にはむつかしすぎるという矛盾がおり、四日目の座談会では、それぞれの立場からの不満がたくさんだされ、今後の講習会のありかたがとわれた。

講義及び実務の日程は次のとおりであった。

第一日。Ⅰ. (古代)中世史料概論(東京大学名誉教授、宝月圭吾) Ⅱ. 近世史料概論(東京大学史料編纂所、山口啓二) Ⅲ. 近世史料概論(愛知教育大学教育学部、吉永昭) Ⅳ. 近代史料概論(立命館大学経済学部、後藤肇) 第二日。Ⅰ, Ⅱ. 村方史料読解(国立史料館、浅井じゅん子) Ⅲ. 近世の民俗資料(国立民俗学博物館教授、中村俊智) Ⅳ. 史料の保存学(文化庁文化財保護部、西川杏太郎) 第三日。Ⅰ, Ⅱ. 町方史料読解(国立史料館、安沢秀一) Ⅲ, Ⅳ. 史料の補修(宇佐美国宝修理所長、宇佐美直行) 第四日。Ⅰ, Ⅱ. 幕藩史料読解(国立史料館、大野瑞夫) Ⅲ. 座談会 Ⅳ. 施設見学(場所、府立総合資料館) 第五日。Ⅰ, Ⅱ. 史料の整理、管理(国立史料館、原島陽一) Ⅲ, Ⅳ. 史料の分類(国立史料館、藤村潤一郎)。

次に概論について簡単に述べる。

(古代)中世史料概論：中世史料は非文献史料と文献史料とにわかれ、非文献史料とは文字にしるされていない重要な歴史的史料で、自然的な地形、人為が加った用水、城跡、地名など、文献史料とは文字によって表現され、それを読むことで重要な歴史的史料となるもの、金石文、古記録、古文書、編纂物で、それぞれについて解説があった。

近世史料概論：支配関係史料である幕藩武家史料の解説、非支配関係史料である<sup>じかた</sup>地方文書の解説。ここで古文書の体系的な研究をすすめていくには、次のようなことが大切であると講義された。まず古文書を文化財として大切に保存すること。古文書の内容、すなわち使われている料紙の質や字の書体、印カンなどをよく吟味すること。古文書というものは公にすること、後世に残すことを目的として作られたものでなく、その時代の生活の中で意志の伝達手段として作られたものであるから、古文書がどのような背景の中で法的、経済的機能を果たすべく作られたかを吟味すること。そしてそれぞれの文書の関連の仕方についてよく考えながら、古文書を扱うことが大切である。

近代史料概論：近代史料は明治時代、日清戦争以後が研究の中心課題となり、その基本的な文献史料として収集したら良いと思われる経済、財政と政治からみた政府側の資料、民間側の資料数十点をあげた。以上概論のみ簡単に述べたが、読解の実務では半数がひとつも読むことが出来なく、古文書の読解は語学の学習と同じで、一朝一夕に読めるはずはなく、受講者の地域、地域で“古文書を読む会”を作り、継続的に読習することが大切だといわれた。(あべ・ふきこ：中央図書館参考調査掛)

## お 知 ら せ

## ドイツ連邦議会「戦後分」議事録の購入きまる

Deutscher Bundestag Wahlperiode 1-8  
Stenographische Berichte 1949-1977  
Drucksachen 1949-1977  
Register

上記資料は第二次大戦後の西独議会、さらには西独の政治、経済、社会を実証的に究明する基礎資料である。

このたび、地域共同利用図書として、昭和53年度外国学術図書購入費（人文・社会科学系の大型コレクション購入のための文部省配分による特別経費）によって九州大学が購入することとなった。

## ◆ 研 修 報 告

## 大学図書館職員講習会に参加して

常 岡 正 子

〈とき：昭和53年11月14～17日　ところ：京都大学〉

この講習会は、文部省並びに京都大学附属図書館主催により、大学図書館活動を促進するため、大学図書館の中堅職員に、図書館業務の最新の知識及び専門的技術を習得させ、その資質の向上を図るため、毎年開かれているものである。本年度の日程及び科目は次の通りであった。

## 第1日(11月14日)

大学図書館の使命(林良平, 京都大学法学部教授, 附属図書館長)  
 専門職能としての大学図書館員(岩猿敏生, 関西大学文学部教授)  
 大学図書館行政(田中久文, 文部省学術国際局情報図書館課専門員)

## 第2日(11月15日)

研究者の図書館への期待, 人文・社会科学系(渡辺洋二, 京都大学教育学部教授)  
 書誌調整の国際的標準化の動向(小田泰正, 京都産業大学理学部教授)  
 研究者の図書館への期待, 自然科学系(平瀬進, 京都工芸繊維大学工学部教授)

## 第3日(11月16日)

日本目録規則の改訂と目録業務の今後のあり方(田辺広, 一橋大学附属図書館事務部長)  
 学術情報のオンライン検索(中山和彦, 筑波大学電子・情報工学系教授, 学術情報処理センター長)

## 第4日(11月17日)

大学図書館における参考調査活動(長沢雅男, 東京大学教育学部助教授)  
 図書館における利用者研究(井上如, 東京大学情報図書館学研究センター助教授)  
 今回の講義内容は、比較的、大学図書館の総論的内容が多かった様に思う。その中で実務に関連していると思われる日本目録規則の改訂について若干報告して見たい。日本目録規則新版予備版が、52年12月に出版され、53年1月、国立国会図書館において、その適用が決定されている。新版作成について基本方針をテキストより引用すれば、

1. この規則は明治以後刊行の和書を対象とするもので、これを扱うすべての図書館の汎用標準目録規則である。
2. この規則は記述ユニットカード方式を原則とする。ただし単一記入制の目録を作成する場合の便をはかるため基本記入方式による標目の選び方をも示す。
3. 原則として片かなを標目とする。
4. この規則は序説、総則、記述、標目の選定、形式、排列の順とし、逐次刊行物、視聴覚資料等についても順次作成する。

この新版予備版による記入を下記の例により説明された。

		標目
	太平洋の橋・新渡戸稲造伝 石上広一郎著 東京 講談社 1968	記述の部
	1. タイハイヨウノハシ    2. ニトベイナゾウデン a1. イシガミケンイチロウ b1. ニトベイナゾウ    ①197	標目指示 書名 著者名 件名 分類

上記の記述ユニットカード方式では、記述がまず目録の根幹であるとの考えから ISBD (国際標準書誌記述) に出るだけ添うようにしてある。“ISBD に載っていれば国際的互換性(MARC)を持つ。”しかも和書の特殊性を取り入れた規則を作り、それにより一枚の原稿カードを作り複製し、標目はそれぞれのカード目録体系に従って書名・著者名・件名・分類を空白にした部分に記載するというものである。この場合、この基本方針に従って標目に片かなを用いるとすると、公共図書館では適合していると思われるが、基本記入方式を採用しローマ字で表記している多くの大学図書館では、どう反応するか、又、国際的には、パリ原則から見ても問題があると、ある講師は指摘された。しかし、新版決定版が発行されるまでには、国際的動向も相俟って、まだ年数を要すると思われるので、この日本目録規則新版予備版は長く使用されることになるとの話であった。

以上は、今講習会講義内容のほんの一部であるが、研究者・利用者側からの図書館に対する期待、要望などを耳にし、ますます専門的職能としての成長を、迫られていることを、痛感した。

なお、九大からは、樋口伸子氏(中央図書館)、池田文保氏(教育学部)、常岡正子(文学部)の3名が参加した。  
 (つねおか・まさこ：文学部図書掛)

## 資料紹介

## 昭和49年度～52年度特別図書購入費による購入図書(中央図書館) その2

— 下記の資料を購入しましたのでご利用ください —

図 書 資 料 名	巻 号	刊 行 年
National Association of Secondary School Principals Bulletin. Repr. Ed. (米国中等学校協会紀要)	Vol. 1-30	1917-1946
Nodier, Ch. Oeuvres Completes. Repr. Ed. (シャルル, ノديه全集)	Tom. 1-12	1968
Под знаменем Марксизма. Microfilm. (マルクス主義の旗のもとに)		1922-1944
Slavic Review; American Quarterly of Soviet and East European Studies. Repr. Ed. (スラブ研究—ソビエトおよび東ヨーロッパ研究—季刊誌)	Vol. 1-20, 22-28 & Suppl. No. 1	1941-1969
U. S. Superintendent of Documents Catalog of the Public Documents. Repr. Ed. (アメリカ政府公文書目録)	Vol. 1-25	1893-1963
United States National Labour Relations Act; Court Decisions Relating to National Labour Relations Act. Repr. Ed. (アメリカ労働関係争議—労働争議に関する判決集)	Vol. 1-21	1939-1972
Zeitschrift für Kunstgeschichte. (美術史雑誌)	Bd. 9-23	1940-1960
Comprehensive Dissertation Index. (CDI) (米国学位論文総合索引)	Vols. 1-37	1861-1972
Le Globe. Genève, Slatkine. Repr. ed. (グローブ紙)	Vols. 1-9	1824-1831
Etudes Philosophiques. Repr. ed. Unbounded. (哲学研究)	Ser. 1: Vols. 1-20 N. S.: Vols. 1-9	1926-1945 1946-1955
Psychologie Francaise. Bulletin de la Société de Francaise de Psychologie. (フランス心理学会々報)	Vols. 1-15	1954/55-1969
Review of Existential Psychology & Psychiatry. (実存的心理, 精神医学誌)	Vols. 1-15	1961-1975
National Cyclopedia of American Biography; being the History of the United States. (アメリカ人名大百科事典)	Vols. 1-56 with Index.	1967-1975
Annals of the Association of American Geographers. New York. Repr. ed. (アメリカ地理学者協会年報)	Vols. 1-12, 23-57	1911-1967
Combined Retrospective Indexes to Journals in: History.	Vols. 1-9 (Subject) Vols. 1-2 (Author)	1838-1974
Political Science.	Vols. 1-6 (Subject) Vols. 1-2 (Author)	1886-1974
Sociology. (キャロルトン雑誌記事索引: 歴史, 政治, 社会学)	Vols. 1-5 (Subject) Vol. 1 (Author)	1895-1974
Плеханов, Г. В. Сочинения. (ブレハノフ著作集)	Vols. 1-24	1922-1927
U. S. Department of State Bulletin. (米国国務省週報)	Vols. 1-20 26, 28-48	1393-1963

図 書 資 料 名	卷 号	刊 行 年
旧韓国外交文書及び外交関係附属文書	Vols. 1-22 Vols. 1-8	1965-1973 1972-1974
Sovetskaia Iustitsiia. (with Supplements "Sudebnaia Praktika RSFSR 1927-1931") (ソヴィエト司法：ソ連最高裁判所機関紙)	1922-1941	1922-1941
Southwestern Reporter. (U.S. National Reporter System.) 1st Ser. (合衆国南西部判例集)	Vols. 1-300	1887-1939
Jahrbuch des Zivil-Handels- und Prozessrechts, einschliesslich des ges. Notverordnungs- und neuen Reichsrechts. (民事訴訟裁判記録年報)	Jg. 1-42(Schluss), zu Jg. 1-6	1900-1941
BIS Annual Reports, The Bank for International Settlements. (国際決済銀行年次報告)	1st-43th, 2 Indexes.	1930-1973
History of Educational Collection. (英国単科大学・中等学校教育関係集書)		
日本林制史調査資料 マイクロフィルム版 九州編 (全11藩)		
Quellenschriften für Kunstgeschichte und Kunsttechnik des Mittelalters und der Renaissance. & Quellenschriften für Kunstgeschichte und Kunsttechnik des Mittelalters und der Neuzeit. (美術史研究史料：中世・ルネッサンス・近代)	Bd. 1-18  Bd. 1-5 in 3v.	1871-1882  1974
Nineteenth Century Fiction. Berkley. Repr. ed. (19世紀の小説)	Vols. 1-27	1945-1973
Gesamtverzeichnis der Bibliographie erfassten Deutschsprachigen Schrifttums. (ドイツ語文献目録)	1-48	1911-1965
Deutsche Bibliographie; Zeitschriftenverzeichnis. (ドイツ書誌：雑誌文献目録)	1945-1970	1971-1976
International Encyclopedia of Psychiatry, Psychology, Psychoanalysis and Neurology. (神経・精神・心理学百科全書)	1-12	1977
通報：T'oung Pao. (東洋学研究史)	Ser. 1, 2	
Symbolik der Religionen; Text- und Tafelwerk. (宗教における象徴論)	Textwerk. 1-12 Tafelwerk. 13-20	1958-1975
Hefele, Carl Joseph: Histoire des Conciles d'après les Documents Originaux. Nouvelle Traduction Française faite sur la 2 <sup>e</sup> éd. (教会公会議史)	1-11 1-30	1907-1952
Annual Reports of the Board of Governors of the Federal Reserve System, U. S. Government Printing Office. (合衆国連邦準備制度年報)	1st year-40th year.	1914-1933
Коммунист (Formely: Большевик) (コミュニスト機関誌)	1-44	1924-1960
Department of State Bulletin. (米国防務省週報)	49-73	1963-1975
特高月報 (内務省警保局) 複製版	5-19	1973
Tennessee Law Review. (テネシー州・法学誌)	1-42	1922-1975
Wisconsin Law Review. (ウイスコンシン州・法学誌)	1-21	
Collier on Bankruptcy. 14th ed. James William Moore, Editor-in-chief. (コーリアの破産法)	1-23	
Hearings of the Temporary National Economic Committee. (臨時全国経済委員会審問集)	1-31 & Final Report.	1938-1941
American Business Abroad. (アメリカの海外企業)	1-50	1976
Statistical Theory and Method Abstracts. (Formerly: International Journal of Abstracts, Statistical Theory and Method.) (統計学理論と方法論)	1-9	1959-1968



## お知らせ

## 教養部分館の新建築について

長い間、待ち望んでいた教養部分館の新館建築が昭和53～54年度にかけてなされることが、決まりました。現在の建物は、大正12年に建設され、最近では収蔵量の限界をこえ、図書館機能にも支障をきたし、多くの利用者に不便な思いをよぎなくさせていた。

新教養部分館の建築計画では、現在の建物を取りこわし、跡地に、東西に33m、南北に46mの長方形を底面積とする地上3階建てで、2階の中央部に主入口、2階と3階が閲覧スペース、1階が積層2層の書庫スペースである。総面積は、約5,000㎡、収蔵冊数は約340,000冊、閲覧座席数は約670席である。新館の閲覧スペースでは、指定図書、一般教養図書、参考図書を最優先で整備充実し、視聴覚室及びAV室を、新しい図書館資料の活用場として設け、近い将来の研究・教育に利用できるよう計画されている。

新館着工は、明年3～4月頃の見込みで昭和55年2月頃には、いよいよ新図書館の全ぼうが見られることになろう。

(なお、この工事期間中の教養部分館は、旧地学教室に移転し小規模な図書館機能となり、利用者各位に大変ご迷惑をおかけすることになるが、この点、充分ご理解されご協力かたお願いする。)

## 中央図書館語学演習室の利用について

外国語を修得するには、その国で生活することが最良であるといわれている。ところで、それに近い環境をつくりだすことができ、効果的、かつ能率的に目的を達成できるのが、視聴覚教材を使った語学演習装置であり、これは近年各種の機器、教材とともに急速に普及、発達してきている。

中央図書館では、学生および教職員の語学修得に役立てることを目的に、昭和49年12月から個別学習方式による語学演習装置(Language Laboratory)専用のオーディオブースを3階西側に開設している。

開設当初から昭和53年3月迄の期間は、予約制で運用していたが、その期間の利用状況と利用者の便宜を考慮し、加えて機器、教材の補強に意を尽し、同年6月迄の3ヶ月間の試行期間を経て、53年7月から予約制を廃して利用の都度申込み制度に改め、同利用要項の一部を改正した。

現在中央図書館保有の機器は、Sony プースレコーダー ER55(カセット用)4トラック8台、ER8D(オープンリール用)2台、TEC Labo'70 3台を備え、教材については、市販の各種教材テープ8ヶ国語、テープ数にして約300巻と各種テキストを揃えている。

今後も、機器、教材については充実に努めるが、利用者がそれぞれの目的に応じた語学演習に活用されるよう希望するものである。

利用要領、教材などについては、3階閲覧事務室で尋ねられたい。なお、利用時間は次のとおりである。

平日：9時～12時、13時15分～16時30分

土曜日：9時～12時

## ◆ 日 録

- 会 議 等
- 10.11 国立七大学附属図書館部課長会議(第11回) 於大阪大学
- 10.12 国立七大学附属図書館協議会(第52次) 於大阪大学
- 10.20 分館長会議
- 10.23～27 近世史料取扱講習会(第24回) 於京都府立総合資料館
- 10.25 昭和54年度国立大学図書館協議会賞受賞者選考委員会 於京都御車会館
- 〃 国立大学図書館協議会理事会(昭53年度第2回) 於京都御車会館
- 〃 国立七大学附属図書館事務部長・課長連絡会議 於京都御車会館
11. 2 図書系掛長会議
11. 7 国立大学等間における文献複写業務の改善に関する説明会 於熊本大学
- 11.13 人事部内監査
- 11.14～17 大学図書館職員講習会 於京都大学

- 11.16 福岡県佐賀県大学図書館協議会第2回福岡地区研究会 於福岡工業大学
- 11.28 文部省会計実地監査
- 11.30 図書系掛長会議
12. 7 分館長会議
- 12.11 全学図書系掛長研修会
- 12.14 図書館商議委員会(第113回)
- 来 館 者
10. 3 筑波大学図書館部 山田運用課長補佐
10. 4 筑波大学図書館部 中村事務部長
- 10.24 東北大学附属図書館 和漢書目録掛板垣司書
- 10.28 オランダ・ナイホフ社 イスラリス氏
11. 1 文部省学術国際情報図書館課 貴田学術資料係長
11. 6 京都大学法学部 武内整理掛長外1名
- 11.11 公立大学協会身体障害者受入問題委員会7名
- 11.20 京都大学人文科学研究所 小国東洋文献センター事務掛長外1名
- 11.24 エール大学 HALL 教授
- 12.13 九州芸術工科大学附属図書館 永芳事務長
- 12.14 図書館情報大学創設準備室 都賀主幹
- 12.18 宮崎大学附属図書館 宮内管理係長外1名

編集委員 主査・長谷川信彦 委員・福永 寿夫、三嶋 博義(中央図書館)、河上 保(医学分館)、久保 昭夫(教養部分館)、長 和栄(文)、友納 昭二(農)

九州大学附属図書館報「図書館情報」Vol. 14, No. 4(通巻113号)

1978年12月28日発行・発行人 岡田 六郎

発行所 九州大学附属図書館・福岡市東区箱崎6丁目10番1号・〒81002・電話代表(641)1101 内線5310